



色と記憶の関係性

班員 大野菜月 時任愛菜 吉岡樹里

コーチ 上野原一道さん

萱野みずき 淡島樹

指導者 山中千聡先生

仮説

- ・学校の授業で使用されており、見慣れているため**黒板色**が1番頭に入りやすいのではないか。
- ・文字色との組み合わせを考えると背景は暗めの色か白がいいのではないか。

先行研究

横浜市立大学の卒業論文「文字種類の違いによる記憶への影響と忘却率の変化」についての研究で黒が1番頭に残っていることが分かっている

↓しかし

背景色と文字色の組み合わせが分かっていない！私たちは1番頭に残る組み合わせを研究する！

研究方法

4ケタの数字を用いて、色・背景色を変えたものを被験者に配り、5分間で覚える。

そして、結果をデータとして出す。

短期→実験後すぐにテスト

*4ケタの数字…ディズニーやジブリの制作年数



参考文献

2018年 伊藤 雅敏

「文字種類の違いによる記憶への影響と忘却率の変化」

謝辞

本研究の遂行にあたり、コーチとして終始多大なご指導を賜った、上野原一道様並びに、指導者山中先生には、多数のご助言を賜りました。ここに深謝の意を表します。

研究結果

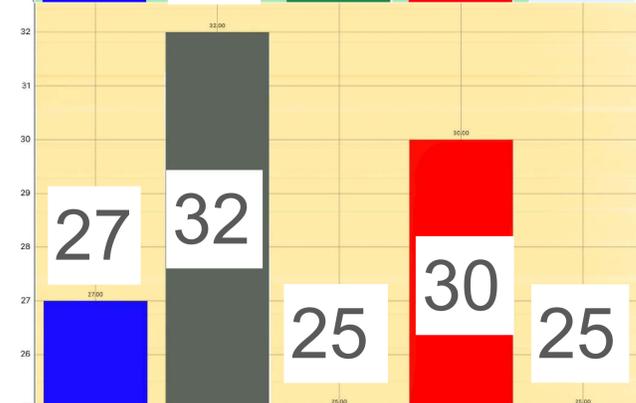
こくばんしよく

黒板色



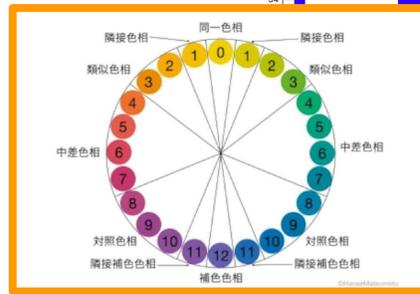
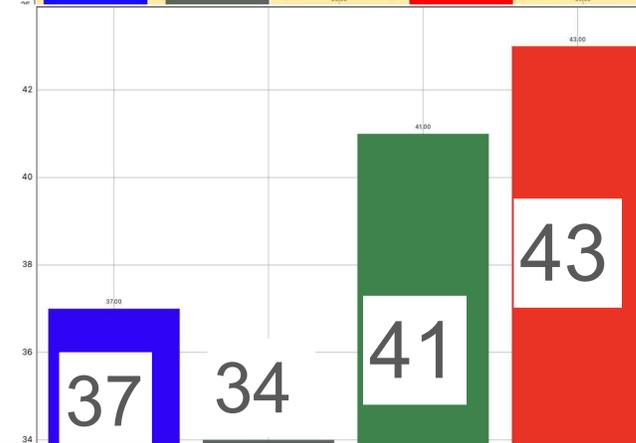
きいろ

黄色



しろいろ

白色



黄色の色相を起点に色相差の関係を示した図

結果

文字色 \ 背景色	青色	黒色	緑色	赤色	白色
黒板色	31	20	21	23	23
白色	37	34	41	43	
黄色	27	32	25	30	25

考察

背景色が黄色と白の場合、文字色が”補色”(反対の色)の組み合わせは誘目性、視認性により記憶に残る。
背景色が黒板色の場合、類似色の組み合わせが見づらいことから、注目して見る傾向にあるため記憶に残ると考えられる